

# CLOSE UP

【クローズアップ／欧州レポート③】

## フォーク内蔵モバイルシステムで 国際青果卸の航空貨物を迅速検量

カスケード ジャパン+RAVAS, オランダ現地事例



団体ほか、スペインやイタリア、ドイツなどの生産者とも連携し一年中新鮮な青果を提供している。

「顧客の安全のため必要な全ての対応を行う」とする徹底したトップクラスの品質管理とマーケティングで顧客の信頼を得ており、レタスの一部ではマーケットリーダーの位置にあるようだ。

### ◆品質管理を徹底

物流センターは1フロア・9ドックで、1日にトラック20～30台が約800パレットを入出荷、多様な冷蔵

カスケード ジャパンは米カスケード・コーポレーションの日本法人として、世界中のフォークリフトメーカーで標準採用されているカスケード製アタッチメントの輸入販売と、アタッチメントの設計・製造、アフターサービスを行っている。同社が昨年、オランダ・RAVAS社と提携し事業展開を始めたフォーク内蔵型モバイル計量システムに注目した取材レポート、最終回は、オランダで国際的な青果卸を営む2社の事例をお送りする。いずれも入出荷する商品パレットのモバイル計量への活用例で、大きな効果が生み出されているようだ。(編集部)

### Versland >> モバイル計量で インボイス正確化

#### ◆レタスのマーケットリーダー

Versland BVはオランダ東部のPoeldijkにある流通団地に本社と物流センターを構えている。社名はフレッシュランド、という意味らしく、文字通り新鮮なフルーツ、野菜を取り扱う青果卸売企業だ。

レタスの全品種とキャベツほかの葉野菜、大根、蕪、チェリートマトなど(タイトル写真)、扱い品種を年々拡充。顧客はオランダ国内のスーパーマーケット、青果加工業者、輸出業者のほか、イタリア、スペイン、

フランスなど欧州、近年は中東各国に、そして日本にも輸出している。調達先としてはオランダの生産者



① Versland本社・物流センター外観



②③ 荷捌きエリアと冷蔵庫 ④ 入荷検品を行うマルコさん ⑤⑥ iForksを設置したトヨタのフォークリフト(赤い端末が表示器)

保管設備を備える(写真①～③)。同社の品質管理の確かさを示していたのが、入荷検品だ。

写真④の通り、入荷した商品については検品・品質管理担当者が入念にチェックしている。軽量品だから輸送コンテナに1パレット2 m以上

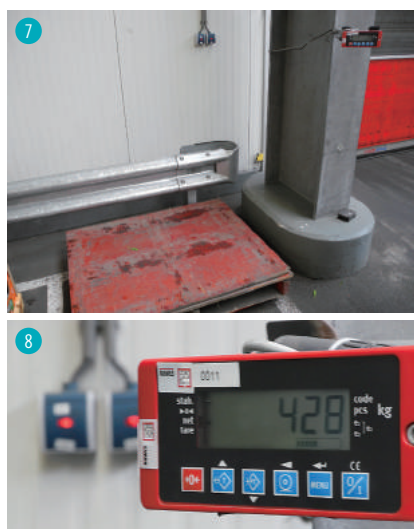
の高さに積んで届く商品を、最上段で現物確認するため、専用の検品台を用意。コンピュータ端末を搭載、担当者の名前入りだった。

#### ◆入出荷時に迅速計量

その構内で活躍する7台のフォークリフトに

クリフトにRAVASのモバイル・ワイヤレス計量システムiForksを、別に1台の定置型システムを導入している(写真⑤⑥)。

その用途はもちろん、入荷時・出荷時に商品パレットの計量を行うこと。パレットを持ち上げた瞬間に自



⑦～⑨ 定置スケール  
⑩ Koelewijn氏の奥は出荷品の急速冷蔵装置





11 BE Freshの本社物流センターはドック8か所

動計量、無線ハンディ端末を経由してWMSにデータを伝達。入荷なら商品データ・パレットNo.と入庫する保管ロケーションを紐付けし、記録される。

フォークリフト全数にiForksというわけにもいかないから、定置型スケールも設置し、混み合う時間帯など誰でも確実な計量ができるようにした(写真7~9)。

「出荷するときは、トラックが着いたらこれらで計ってすぐに出荷できるので助かります」と同社ディレクターのEd Koelewijn氏は話していた(写真10)。

iForksの迅速かつ正確な計量データは、プリンタにワイヤレス通信し、重量を記載したインボイス(納

品書兼請求書)を直ちに出力、商品に添付し出荷する。これにより顧客に正しい納品情報を伝える効果の他、航空便での輸出の際、手間なしに正しい重量データをもって出荷できることのメリットは、次項で説明しよう。

## BE Fresh >> 航空貨物の正確計量でロス低減

### ◆オランダ魂

BE Freshも前記Verslandにほど近い、De Lierの流通団地の一角に本社と物流センターを構える(写真11)。ここウェストランドエリアはオランダの農業の中心地で、世界でも最高レベルの品質を提供する優秀



創業者のBergwerff氏

な生産者が多いという。また本エリアはアムステルダム・スキポール空港とロッテルダム港に近く、商品到着から1~2日以内に世界各地に出荷できる地理的条件を備えている。

これはBVシェンカーともVerslandとも共通する条件で、やはり世界の物流ハブをなすロジスティクス立国・オランダの強みを活かしたビジネスモデルなのだ。

16世紀に東インド会社を設立し海洋貿易で世界を制覇した、黄金時代(Golden Age)のオランダ商人魂。それが今も脈々と受け継がれているのに違いない。何しろ「世界が私たちの裏庭」と同社の会社概要にはあるのだ。

### ◆フルレンジ

BE FreshはVerslandと同じく青果卸企業だが、さらにグローバル



12 13 定置多品種少量青果を満載したドバイ向け混載パレット





14



15



16



17

14 15 iForksを装着したフォークリフト 16 17 モバイル検量システム搭載のパレットトラック

な事業展開を進めているように見えた。「日本の輸入業者、顧客の皆さんとももう20年にわたり取引させてもらっていますよ」と今は息子さんに社長業を譲った創業者、Gerrit Bergwerff氏は機嫌良く話す。

同社はヨーロッパや北南米、中東、アジアまで世界中の顧客に向けて、新鮮で最高品質のフルーツ、野菜を確かな納期で届けている。その産地を知り尽くし、哲学を共有する各国の契約農家から直接調達しているのが強み。

「顧客が求めるフルレンジの商品を持つ」と謳っているが、現場ではレタス、ポテト、マッシュルーム、アーティチョーク、取材時の5～6

月が旬のアスパラガス、そしてブルーベリー、キウイ、オレンジetc., Verslandに比べて遥かに多品種少量の出荷混載パレットを目の当たりにし、「フルレンジ」を納得した(写真12 13)。

#### ◆物流品質

同社は生産者から当センター、そして陸海空すべての輸送モードを効果的に活用して顧客に商品を届けるまで、物流工程での品質向上を追求している。とくに高付加価値商品の迅速輸送が可能な航空輸送を拡大しており、今では出荷品の約9割を空輸で運んでいる。

輸送中品質を維持するため、リー

ファーコンテナ活用とともにパッケージングを重視。埃や温度変化から商品を保護するため、工夫した独自カートンを生産者に送ってバック／あるいは本センターでバック詰めしたうえ全パレットをラップ。ベリーのように敏感な製品は、低温を保つためにアイスパックも使用している。

#### ◆超過料金を回避

本センターでは2年前、ワイヤレスタイプのRAVAS・iForksを電動フォークリフトに2セット導入した(写真14 15)。今般3セット目として、機能的には同じモバイル検量システムを、モバイル検量システムを電動パレットトラックに導入したところ

だ(写真16・17)。

その理由を聞いてみると、「自然はトヨタの工場みたいに正確ではありません」とBergwerff氏は意外な話を始めた。

「畑のできる野菜も果物も、1個の重さは皆バラバラです。1箱12個入りでも、全て重さは違う。顧客に正しい重量の商品を届けることはもちろん、9割を占める航空輸送において常に正しい重量を申告し、超過重量料金を支払わないようにする必要があったんです」(同、以下も)

空輸コストは高い。ユーロ圏ならkg当たり8ユーロセントだが、日本向けでは1.7ユーロもかかる。

「私たちは自分が何をしているか、正しく認識することが必要なのです。どの商品を何箱、何kg出荷したのか。違っていたらクレームになる、この重要な情報を自ら正しく知ることが」

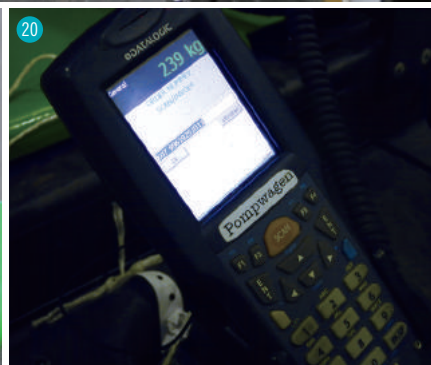
以前、超過空輸料金として5万ユーロも請求されたことがあったのだ。これではビジネスにならない。同社では第1に、航空貨物の正確な検量のため、そしてそのために従来要していた人件費の節減のため、モバイル検量システムを導入したのだ。

作業者はフォークに搭載したパレットのラベルIDをハンディリーダでスキャン、iForks等による検量データをBluetoothでハンディ端末に送信、ハンディ端末から無線でリアルタイムにERP/WMSに連携する(写真18～20)。

正しい検量結果はエクセルシートにして顧客に提供するとともに、航空貨物の申告データとする。

## ◆数週間で投資回収

「以前は1パレットごとに固定スケールに運んで検量していたので、



18～20 iForks検量データはハンディ端末で読んだパレットIDと紐付け、ハンディ端末経由でWMSへ

順番を待たねばならず、時間と手間がかかっていました。それが搬送作業と同時にでき、入荷した新鮮な商品をすぐ出荷できる。ビー・フレッシュ! です」とBergwerff氏は続ける。

「RAVASのシンプルな仕組みで、信頼性ある正しい重量を量れるようになったので、今はどの航空会社とも超過料金のトラブルはありません」

同社では年間に約100万箱を航空便で出荷しているから、平均1箱5kgとすると500万kg。航空運賃はkgあたり平均1ユーロとしても500万ユーロになる(だから商品以上の価格になることも)。その1%に検量ミスがあったら、超過料金はたとえば5万ユーロになってしまうわけだ。

検量と入出荷作業との一体化で効

率化・迅速化できた効果も大きい。作業動線の改善だけでも約10%効率がアップしている。フォークリフトオペレータの人件費が1人約5,000ユーロ/月として、10%改善だけでも500ユーロ/月=6,000ユーロ/年を節約できる。しかも正確化でピッキング、出荷ミスのリカバリーコストも不要だ。

「だから投資回収期間は、数週間だと思います」

これ以上明確なROIを示せる例も多くあるまい。

\*

カスケード・ジャパンはRAVASとの提携でこのモバイル検量システムの、日本導入を可能にしている。日本なりの用途で、新たな可能性を発揮する日が楽しみだ。

MF